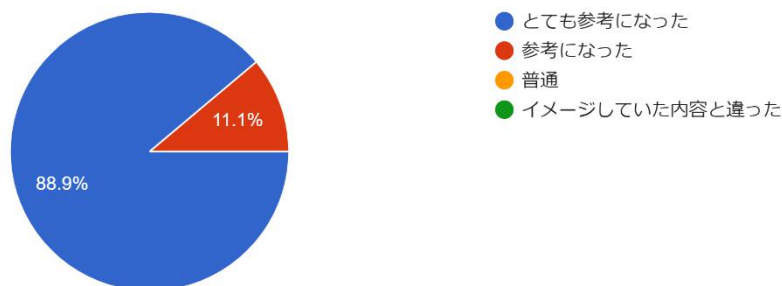


第22回意見交換会参加後アンケート

2024.9.25

今回のテーマについていかがでしたか。

9件の回答

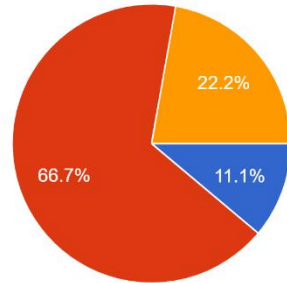


特に参考になった内容は何か。7件の回答

- 永井様、松尾様のご回答のなかで、研究の切り口や理論、比較する項目など具体的なご提案。
- 大学教員と臨床看護師がコラボ（共同研究）するという仕組みは良い考えだと思いました。
- 各施設での看護研究をやりたくない理由で、どの施設も同じような事だということや、看護研究の進め方で、個人差があること。
- 看護研究の進め方、他の施設の看護研究に対する考え方や課題
- 研究の導き方
- 看護研究を行うことの障壁として、大学病院などの大きな病院と眼科単科のクリニックなどの小さな病院では異なっていると感じました。大学病院では倫理審査などのシステムの煩雑さが障壁であり、クリニックでは論文にアクセスににくい点と研究を相談する人が少ない点が障壁になっているのかと感じました。研究自体がエネルギーが必要なことなので、日々の仕事に追われて研究まで気が向かないという気持ちがよく分かります。日々の看護で気になること、引っ掛かりが研究の種になるので、研究をそのような事例を深く考えることができる機会だと捉えると研究への推進力になるのかなと感じます。
- それぞれの事例では、事例の中に問題点がいくつかあるため分けて考える必要があると思いました。
- 他施設の看護研究の取り組みや遵守事項等、大変参考になりました

時間についてはいかがでしたか

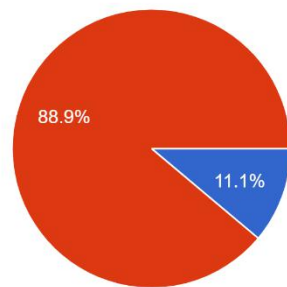
9件の回答



- 長かった
- 適当であった
- 短かった

日程についての希望があれば教えてください

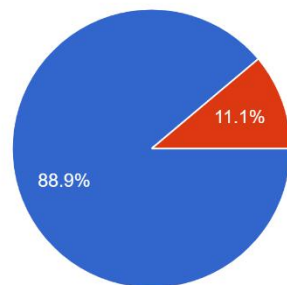
9件の回答



- 平日
- 土曜日
- 日・祝日

今後も意見交換会（セミナー含む）への参加を希望しますか。

9件の回答



- 希望する
- 内容によって希望する
- 希望しない

●そのほか今回の眼科看護の研究を深めように関するテーマについて参考になった点、もっとお聞きしたかった点について今後の企画の参考とさせて頂きたく以下にお願いいたします。8件の回答

- 当院の看護研究は、現状では、実態調査として因子分析を用いた研究を行っています。しかし、多変量解析など、より高度な統計手法を用いた分析を行うには、統計学の知識が不足しています。統計の知識が浅く、因子探索研究である実態調査が精いっぱいです。今回、理事長からお話があったように共同研究や指導者の支援を得ながら研究に取り組むことの重要性を感じています。また、吉崎様のお話では、多職種と協力してアンケートを作成されたとのこと、大変興味深く聞かせていただきました。他職種の視点を取り入れることの重要性を改めて認識しました。分析の切り口、データ分析手法など、研究に関するアドバイスをいただければ、自施設でも臨床看護師が安心して研究に携われる環境を整えられると考えています。理事長の『一人で悩まず、施設で悩まない』という言葉が響きました。意見交換会の中でお話しがあったように、研究の途中でも相談できるようなシステムがあれば心強いです。
- PG点眼の副作用への対応方法について
- 実際にあった症例報告の事案をもう少し具体策を踏まえながらやってもらいたかったです。
- 眼科で患者様の症例研究の文献が少ないので研究を進めるには小規模の施設で扱うのは倫理的な事等も考えるとこれは大変だと思いました。しかし、今回たくさんのアドバイスをいただくことができました。自分が患者様の目標を高く持ちすぎたと思います。情報を丁寧に分析し、目標を患者様と一緒に細かく設定し、計画、実践、評価していけば結果は何かしら出てくる、と思いました。参加者の皆様いろいろな経験をされ勉強されているので本当に勉強になりました。ありがとうございました。悩んだ時に相談できる“看護研究相談窓口”みたいなものや施設間を超えて看護研究ができればさらに眼科の看護の発展に貢献できるのではと思いました。
- 看護研究に関して皆さんも色々悩んでおられ、施設により対応も違うことも分かりました。
- 事例を研究に繋げるために、1事例30分とるなどもっと長い時間をかけたいと感じました。お話して下さる事例はどれも興味深かったのですが、何を疑問・問題点と感じていて、何を解決したくて研究をするのか、研究の目的は何か議論しにくかったように感じました。ただ、未発表のアイデアをあまり話し過ぎると、他人にアイデアを盗用される恐れがあるので、一定のルールが必要かと思います。研究内容を相談できる看護系の研究者がいない場合に、研究法についての話し合いの場になったり、研修会の中で研究に詳しい人とコラボする形で共同研究者として入ってもらう場になればいいなと感じました。今回は企画いただきありがとうございました。

た。どの事例も、眼科看護を深めるための重要な研究の種だと感じました。

- 意見交換会内出た、他施設との連携、共同研究などの機会を頂ければ大変うれしく思います。眼科看護をより深く、幅広く協力しあいながら発展できれば良いですね。
- 会員の看護研究に関するニーズを具体的に知りたい。また、他の分野の看護研究の動向を踏まえた分析などもあるとよいと思いました。

●今後行って欲しいセミナーや意見交換会のテーマなどがあれば教えてください。

例) 事例検討会(具体的な事例を例示して頂けると助かります)、他ロービジョンケア(具体的にどのような事でお困りの患者さんのケア)、認知症で〇〇が困難な患者さんの指導など

7 件の回答

- 事例ではありませんが、当院では、患者様向け教室などのイベント開催実績がありませんでした。今回、看護師が中心となり、歩行補助具体験会を開催することになりました。患者様への情報提供の機会を定期的に設けたいと考えています。他施設様では、どのような団体や企業を招き、患者様からどのような反響があったか、ご教示いただける機会があればと思います。
- 糖尿病網膜症患者さんへのロービジョンケア
- 最近患者さんのクレームや、ワガママな理不尽なことを言われた場合どのような対応、対策をしているか、何かマニュアル対策はしているのか。外来での小児介助は、どのようにしているのかなど。
- 認知症の患者さんの術後管理や緑内障点眼管理等家族の支援が難しい場合の対応や手術の可否を決めるのにどのようにされているのか?
- 今回の研究につなげる事例検討会があれば参加したいです。
- 看護研究に関しましては、定期的に行っていただきたいです。理事の皆様には大変感謝いたしております。今後ともよろしく願いいたします。
- 現在関わっている臨床看護師(眼科に限らず)からは、看護研究についての困難として、テーマの絞り込み方、文献クリティークの方法およびまとめ方、研究方法の選択と研究枠組みの設定が分からない といったことがあがっており、おそらく会員からも同様のニーズがあると推察される。年間を通した看護研究支援や、近隣の会員同士での研究チームを作り、看護研究者から支援を受けながら進めるような企画があるとよいと思います。